

I 青果情報

1 5月下旬～6月中旬までの経過

気 象 日平均気温は5月下旬～6月初旬にかけて全国的に平年を下回ったが、その他の期間は全国的に平年を上回った。5月下旬の降水量は北日本太平洋側を除き全国的に平年を大幅に上回り、また、日照時間は全国的に平年を下回った。
6月に入ると、気温は沖縄・奄美で平年を下回ったが、その他の地方は平年と同等かそれ以上となった。降水量は北日本の一部を除き平年を上回り、瀬戸内海沿岸等で平年比300%超となった。日照時間は北海道及び沖縄・奄美を除いて平年を上回った。

野菜類

入荷量 3月中旬～下旬の全国的な低温期による生育の遅れと、その後の気温上昇による生育の前進により産地の切り替わりがうまくいかず、さまざまな品目で端境期が生じた。そのため、全体としてはやや不足感がありつつも、旬ごとの前年比の変動幅が大きかった。
野菜全体では、5月下旬から6月中旬までの入荷量は114,662tとなり、前年比96.1%とやや下回った。

相 場 これまで高騰が続いていた「だいこん」「キャベツ類」は、主要産地が切り替わり、入荷量が増加したことにより、6月中旬は前年を下回る相場となった。一方、「にんじん」「ばれいしょ類」等、各産地からの入荷量が依然として少ない品目では、前年比150%以上の高値となっている。
野菜全体では、5月下旬～6月中旬の価格は299円/kgとなり、前年比117.5%と大幅に上回った。

果実類

入荷量 「すいか類」「メロン類」「りんご類」「かんきつ類」を中心に入荷。「すもも」等、着果期の低温による凍霜害により入荷量が前年を下回ったものもあるが、高温に伴い入荷が前進傾向となった品目も多く、「おうとう」は6月の高温による出荷の前倒し、更に過熟果の発生等の影響もあり、入荷量が前年を大幅に下回った。重量ベースで最も大きな割合を占めている「すいか類」は、各産地の作柄が良好なことから平年をやや上回る入荷量となった。
果実全体では、5月下旬～6月中旬の入荷量は22,239tとなり、前年比94.3%とやや下回った。

相 場 全体的に不足感がある中で価格はやや高め傾向で推移し、前年を上回る相場となった。
果実全体では、多くの品目で前年を上回る傾向にあり、5月下旬～6月中旬の価格は566円/kgとなり、前年比107.2%とかなり上回った。